

授業概要

人類は自然のもたらす様々な恩恵を享受することによって生存している。しかし、現代社会はそれらの恩恵を過小評価し、環境悪化はますます深刻化して解決困難な様相を呈している。本講義では、自然科学・社会学的な視点から「環境問題」を捉え、問題解決には何が必要なのかを考えることを目的としたい。扱うテーマは全て、①物事を様々な角度から考えること、②物事を批判的に見る目を持つこと、③常に弱者へ配慮を忘れないようにすること、④科学の限界を知ること、の4つの視座から成り、特に「人と自然とのつながり」に焦点をあてている。

授業計画

第1回	ガイダンス（講義の進め方や成績の評価方法などについて）
第2回	野生動物への餌づけ（野生動物へ餌をあげることによる影響）
第3回	野生動物の交通事故（野生動物の交通事故の原因と対策）
第4回	絶滅の危機に瀕している生き物たち1（レッドリストとレッドデータブック）
第5回	絶滅の危機に瀕している生き物たち2（生物が絶滅する原因）
第6回	森林機能と緑のダム（きれいな水を生み出すしくみ）
第7回	河川にすむ生き物たちとダム（ダムが生み出す功罪）
第8回	干潟にすむ生き物たち（「諫早干拓事業」を通して考える現代の農林水産業）
第9回	漁業資源の枯渇（魚介類の消費と乱獲から考える南北問題）
第10回	サンゴ礁にすむ生き物たち1（海の熱帯雨林「サンゴ礁」の成り立ちとしくみ）
第11回	サンゴ礁にすむ生き物たち2（沖縄に集中する米軍基地と環境問題とのかかわり）
第12回	戦争と自然破壊（今も続くベトナム戦争やイラク戦争の爪痕）
第13回	山と海をつなぐ川1（山は海の恋人とよばれる理由とは）
第14回	山と海をつなぐ川2（サケ・マス類の研究からわかる山と海とのつながり）
第15回	文明の崩壊と自然破壊（古代文明の衰退事例から学ぶ自然保護の重要性）
第16回	筆記試験

到達目標

「環境問題は社会問題である」ことを理解するために、個人の努力や価値観で考えるのではなく、様々な角度から問題を検証する習慣を身につけることができるよう、受講者の「多面的視点」を養成することを目的としたい。また、講義毎（講義時間内に行なう）に必ずレポートを提出させることによって、講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、理解する訓練としたい。

履修上の注意

第一回目のガイダンスに出席しなければ、受講を認めないこともあるので注意するようにしてほしい。どうしても休む場合は欠席届けを提出すること。受講生にとって興味深いであろう、とっておきの問題の題材ばかりを集め、また、受講生の人生観や価値観を変えるかもしれないような内容も用意していると自負している。魅力的な講義ができるよう最大限の努力をしていくことをお約束する。

特に受講者が多い場合には、1クラス80人を上限として人数制限を行なうことがある。

予習復習

予習は、次回の講義で扱うテーマのチェックは必ずしておくこと。授業内で予習や事前準備等の指示をすることがある。原則的に講義毎に必ずレポートまたは感想文を提出してもらうことで復習の一環としたい。これは講義を聞くだけでなく、学んだことを忘れないうちに整理し、自分のものにするための訓練である。

評価方法

講義内で実施するレポート（70%）、定期テスト（30%）

テキスト

- 教科書名：『生物多様性と現代社会：「生命の輪」30の物語』
- 著者名：小島望
- 出版社名：農山漁村文化協会出版
- 出版年：2010年